

27. 柴田 直起 ／ 水のかたち

鉄
天から降ってきたか、地から湧いてきたのだろうか

28. 小日向 千秋 ／ 秋の庭

鉄線、漆
季節はめぐり秋の庭に落ち葉が降り積もる。木々はその営みを繰り返し、かつての人の気配を漂わせながら成長を続けている。日が昇り、雨が降り、風が吹き、庭はその姿を少しずつ変容させつつも、存在している。庭に佇み、木々の声に耳を傾けてみたいと思う。

29. 大槻 孝之 ／ 山の声を聞く

鉄
厚さ12ミリメートル横2、2メートル縦3mの鉄板を加熱バーナーで加熱し、水で急冷していく。鉄板は空間を獲得しながら少しずつ動き出す。そして、徐々に意志を持って立ち上がってくる。

30. 岡 孝博 ／ 保育所の響

レール
この保育所は暫く使われていない。建物の様子から、かつて子供たちの元気な声が飛び交っていたことが想像できる。ライフワークのRAIL WORKを通じ当時と今の保育所の響きあいを感じられたらと想う。

31. 白井 英之 ／ Waterdrop I,II

水、麻紐、アルミ、フォグポンプ、シンクロンスモータ
整然は遠くの彼方で混ざり合う

32. 海崎 三郎 ／ 一輪 2025

鉄
鉄が水平に立つ。
重力が消えて自立する。
それは明日かも知れないが、今日ではなかった。
2025/8/29

33. 菅原 二郎 ／ かまえ・Ver.A

黒花崗岩
単純な形の構成
立方体より2つのエル形を切り出し、中もエル形にくりぬいた形を様々に組合せた形態の一つ、かまえ・Ver.Aです。

34. 松田 文平 ／ 白毫相

白御影石
作品に水を満たして下さい、木の下にやかんがあります。
白毫とは仏の眉間のやや上に生えている白く長い毛を言います、その相を持つ人は仏だけだと言われています。

35. サクサベ ウシオ ／ 浮石環 2025

自然石、足場パイプ
地球上の全てのモノは、重力に対抗してそこに重力とバランスをとりながら存在している。石が池の水面上に浮かんでいるように見せることで、石の重さを人はどのように感じるだろうか。

雨引の里と彫刻 2025

2025年9月21日(日)-11月23日(日)9:00-16:30

Sun.Sep 21, 2025 — Sun.Nov 23, 2025

作家のひとこと

Messages from Artists

番号 作家名 / 作品名
素材
作家のひとこと

「作家のひとこと」はルートマップの作品番号順に掲載してあります。
展示作品とあわせてお楽しみください。

01. 瀬川 伶 / cuboids

土
大地を切り取り、そつと横に置いてみる。

この土地の土が見慣れた風景に違和感を与える。

02. ゼレナク シャンドル / 野放しの周波数

竹、鉄筋、ミクストメディア
「野放しの周波数」は、松林に設置された竹と鉄筋を使用したランドアート作品です。竹の自然な柔軟性と鉄筋の工業的な強度の対比が、自然と人間の関係を象徴しています。このインスタレーションは、自然環境における調和と不協和音についての考察を促します。

03. 八十島 海斗 / 微かな変化

大理石
草木から種子がこぼれ落ちる瞬間や芽吹く瞬間、様々な変化に目を凝らし耳を澄ますことで気付かされることがある。

04. 津田 大介 / 鬼神の弓舞

樟
魔陀羅(マダラ)鬼神が雨引の里の収穫祭に降臨し、弓舞う。

05. 村井 進吾 / 雨引 2025

黒御影石
行と業、彫刻の立ち姿。

06. 加藤 舞 / cycle_AMABIKI

鉄鋼
梅林を抜ける風のように。

07. 佐藤 晃 / 大気の襞 XI

白花崗岩
立ち並ぶ背の高い木々の影をくぐり抜けた先には、広大な空が拡がり
遠くの山並みに向かって起伏のある農地が続いている。
境界のようなこの場所に揺らめく大気の襞を形にしたいと思った。

08. Who / 自然の音に耳をすます:非同期

コルテン銅
加波山(かばさん)を背に 蕎麦畑に佇み 耳をすます
見えない音 感じる空気 うつろう光
それら全てが同じリズムを刻むことはない
それでも心地よい

09. 岡本 敦生 / 息を彫る 2025

玄武岩玉石 (Boulder basalt)
風景の中に「息を彫る」を据える。
山や林や田畑を育む、風景の心臓の様に・・・、
地から吹き出す息吹のように・・・。

10. 高梨 裕理 / ここにあることー可変

楠
ここから眺める山の連なり
筑波山〜きのこ山〜足尾山〜丸山〜加波山〜
燕山〜雨引山〜御嶽山〜丸山〜羽田山
夕方になると赤く染まります。

11. 島田 忠幸 / Gaza水を求めて

アルミニウム・鉄
;Gaza水を求めて;は、アートで世界を動かす事は困難だと思うが、作品を通して時代と社会の関わり、それを動物を解して今強く表現した。

12. 山崎 隆 / 遠足

石材、木材
ちょっとベンチのようなものを作ってみました。
ここでコーヒーでも飲んでおくつろぎ下さい。イタリアでも同じようなものを作りました。なかなか好評のようです。

13. 小笠原 森 / きっかけをかさねる

陶
素材に対し自らの目的や意図と偶然を同位に扱い、目の前で起こる変化をきっかけにして反応を繰り返します。作品はあらかじめ決められた結果に向かうのではなく、反応の集積として立ち上がります。

14. 志賀 政夫 / そらいろのリボン

合板、布、塗料
空から舞い降りた帽子かな？
そらいろのリボンを付けた帽子です。
みんなで座って空を眺めましょう。

15. 山本 憲一 / 剪定季・2025±X

白御影石
剪定季をテーマに長年制作しております。今回は±X型に展開しながら延び生える進捗状況を形にしました。

16. 望月 久也 / 円と方・雨引

鉄、灰色花崗岩
陰陽によれば、円は陽で呼気の「阿形」、方は陰で吸気の「吽形」となります。作品の置かれている場所は、個人が管理なさっている、神道による墓所です。ご注意ください。

17. 平井 一嘉 / かげろう II

大理石
前回出品した同じ大理石の片割れともう一つの大理石を二つに分けてそこからかげろうのごとく大地から天空に広がる様を見てみたいと彫り込みました。

18. 大栗 克博 / いにしえのお慶び

花崗岩、寒水石、セメント
中根地区の集落には、時代を感じさせる長屋門を構えた家が多く見られます。その門は、幾代にもわたり人々のさまざまな暮らしの中の出来事を見守り、人を迎え入れ送り出してきたものでしょう。心をひかれ歩いていると、子供のころの記憶と思い出がよみがえりました。

19. 西成田 洋子 / 記憶の花束

古着、靴、廃材、その他
それぞれの役割を果たしたモノたちが、今、新たな表情を纏い抱えきれない花束となった。

20. 大和田 詠美 / (333)

布、針金、ステンレス、他
本物と擬(もどき)の間で揺らぐ何か

21. 山添 潤 / 空間のできモノ2025 -藪にできモノ-

大理石
この場所に作品を置くのは3度目である
今回は藪の中へ
ぬつと

22. 渡辺 治美 / Root

赤御影石
植物を地で支えるたくましい生命力に満ちた根。
深い底から噴き出すようにうねり延びる。
脈動する命の鼓動を表現したいと考えた。
天災及び争いの絶えない地球。生きものの命の源とは何かと探りたくなる。

23. 齋藤 徹 / 風景 2025 (雨の兆し)

樺木・鉛
数年前、バスツアーで見えられた方から”波トタン?”という質問がありました。私は、”なるほど、そうですか。”という思いがずっと残っていました。場所の選定で回っている時、出会ってしまいました。まさに、それです。今回その衝動でこの場所に置かせてもらいました。

24. 塩谷 良太 / 回転扉

陶
今が何処かにひらくように。

25. 戸田 裕介 / 天地を巡るもの／手品師

ステンレススティールほか
田んぼのなかをあっちへゴロゴロこっちへゴロゴロ。転がる玉を長時間露光で撮影すれば一筆書きの絵が景色一杯浮かび上がる。

26. 鈴木 典生 / 石柱

白花崗岩、土
かつて立派に存在していたと思われる、横たわっている石の門柱と出逢いました。その時の役目を終えた物に私なりのイメージを吹き込んで建ててみたいと思いました。有用性から無用性になる時にいつもと違うと感じ取れる空間への入口をつくりたかったのです。